多文化をあきなう

「オヤ」によるクルド難民女性の自立支援

鶴木 由美子（つるき ゆみこ）
認定NPO法人難民支援協会（JAR）定住支援部チームリーダー

難民の女性たちが作り出すレース編み「オヤ」は、彼女たちが故郷の中東地域で確かに生きてきた証であり、一人ひとりの物語を、わたしたちに伝える。これも、ものの売買にとどまらない「あきない」のもつ力ではないか。

日本に住む難民

難民。昨今、テレビや新聞を通じて聞きなれたことばかもしれないが、遠い国の難民キャンプにいる人たちだけをさすことばではない。

難民とは、人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた人びとのことである。そのような難民は保護を求めて日本へもたどり着いている。その数はこれまでに一万人以上といわれており、近年は急増し昨年だけでも二五〇〇人以上の難民が保護を求めた。

迫害から逃れ、やっと着いた日本で、彼ら彼女らを待ち受けているのは、求めていた平和な生活とはかけ離れた現実。日本語や日本の法律は何もわからず、もちろん家も仕事もない。友人や親戚など頼りになる人や悩みを相談できる相手もいない。そんな孤独で先の見えない状況のなか、日本で難民として認められる手続きに二年から五年以上かかることもある。しかし日本でくらす人びとには、難民一人ひとりのライフストーリーはおろか、難民の存在すら知られていないという悲しい現実がある。

わたしたち認定NPO法人難民支援協会（JAR）は、日本に逃れてきた難民が、自立した生活を安心して送れるよう支援する団体である。JARは、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の事業実施契約パートナーでもあり、一九九九年の設立以来、日本の難民保護を目的として総合的に活動している。日本にいる難民から、年間一万件以上の相談をうけ、専門的なスタッフがその一人ひとりへ支援をおこなっている。さらに、難民への直接支援だけでなく、日本における難民保護の制度改善のために、「政策提言」、「調査研究」、および「情報発信」などもおこなっている。

クルド民族は、トルコ・イラン・イラク・シリアなどの国境地帯に暮らしており、「国家をもたない世界最大の少数民族」との異名をもつ人びとである。山岳地帯だが肥沃な土地で、ぶどうなどさまざまな果実が栽培されている。クルド難民の多くがヨーロッパに逃れているが、一部は日本に向かっている。政治活動や兵役忌避など難民として保護を求める理由はさまざまである。

オヤとは

クルド民族など中東地域に暮らす女性たちに伝わる伝統手芸、それが「オヤ」である。オヤはレース編みで、その技法・道具によって名称が異なる。たとえば、細いレース編み針で製作する「トゥーオヤ」や、縫い針で製作する更に細かいレース編みの「イーネオヤ」、ビーズを編みこみながら製作する「ホンジュクオヤ」などいろいろな種類がある。

オヤの図柄としては季節の草花をモチーフにしたものが多く、心情を豊かな色彩であらわす。オヤは家族ごとに口承で技術が伝えられていくため、作り方も出来上がりも家族それぞれで、編み手の一人ひとりが世界でひとつだけの作品をつむぎだす。

伝統のレース編みであるオヤに着目し、クルド難民女性への自立支援事業に取り組んで四年以上が経つ。JARではクルド難民の女性たちとともに「トゥーオヤ」を製作・加工し、さまざまなイベントやセレクトショップで紹介しながら、彼女たちの文化や、難民となったいきさつ、これまでのさまざまな経験を伝えている。

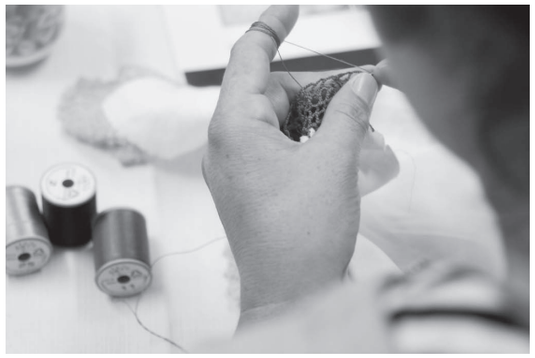
世界的にみてもオリジナリティが高いオヤの図柄には、作り手一人ひとりの気持ちがこめられている。中東の女性たちにとって、オヤは自分の気持ちを表現する手段でもある。難民であるために個人情報を公開することが難しい作り手たちは、顔や実名を明かして自分たちのストーリーを直接語る機会が限られている。わたしたちはそのような難民の声を代弁し、現状を伝えている。

オヤ製作のプロジェクトは、単に、作品づくり、製品展開、あきない、という活動にとどまらず、日本に逃れてきた難民女性たちにとって、自らの存在と文化、そしてライフストーリーを発信する貴重な手段となっているのである。

難民問題をどう解決するか

日本では難民に対する公的な保障は十分とはいえない。ただ、日本で生活するわたしたち一人ひとりが「家族や友人に難民のことを話す」「理解者を増やす」「自分の専門を生かしてボランティアをする」「支援団体に寄付をする」などのさまざまな選択をすることで、難民保護の可能性を広げられる。現在、JARではオヤ製作のプロジェクト以外にも、クルド難民をはじめとする難民の故郷の味とライフストーリーを紹介したレシピ本の販売をスタートさせた。

「難民」という名前の人はいない。難民とよばれる人びとにも一人ひとりの人生のストーリーがある。オヤやレシピなど身近な文化の発信を通じて、難民たちの生きざまやストーリーを人びとの心に届け、社会を動かしていく。その確信をもって、これからも難民とともに挑戦を続けていきたい。


オヤを編むクルド難民の女性

オヤのアクセサリー

オヤを紹介するイベント

オヤのピアスとネックレス

難民が故郷の味を紹介するレシピ本

※写真はすべて難民支援協会より提供